

コンクリートと補強材の付着定着挙動と構成則の利用研究委員会

第2回 WG1 議事録

日 時：2010年3月30日（火）17:30～19:30

場 所：JCI会議室

出席者：島委員長，金久保幹事，角，椋山，松家，八十島の各委員

資料

WG1-2-1：1/29開催WG1議事録（案）[金久保]

WG1-2-2：WG1検討事項 ver.2010.01.29 [金久保]

WG1-2-3：森田先生学位論文緒論 [角]

WG1-2-4：海外付着文献リスト 1945～1988 [角]

議事

1. 前回 WG1 議事録の確認

2010年1月29日に行われた前回WG1議事録の確認を行った。

2. WG1 検討事項および担当者について

資料WG1-2-2の検討事項リストに基づき、個々の項目について内容の検討および担当者決めを行った。

(1) 過去の文献の整理および取りまとめ方法について

- ・ 当面は、検索収集がやりやすい文献に留め、リストアップを行う。リストのテンプレートを準備し（担当：松家委員）、各個の調査結果をまとめ、重複などを整理する。対象と担当は下記のようにする。

- ・ 土木学会論文集 担当：松家委員
- ・ 日本建築学会論文集・技術報告集 担当：松家委員
- ・ 日本コンクリート工学協会年次論文集 担当：椋山委員
- ・ 日本コンクリート工学協会論文集 担当：八十島委員
- ・ American Concrete Institute, Journal 担当：金久保委員

（資料WG1-2-4にリストアップされている文献の精査は角委員、No.11～13は、コンクリートジャーナル1966.2に整理されている）

- ・ 国際会議（Bond in Concrete） 担当：島委員長
- ・ その他、各個で手持ちの文献 担当：各委員
- ・ 付着に関する学位論文の取りまとめについて議論があった。森田先生、角先生、藤井先生などの学位論文が候補となるが、取りまとめについては引き続き検討する。

(2) 指針・基規準類の整理について

- ・ τ - s 関係が取りあげられているもの、または、変形やひび割れに関して付着に関する項が取りあげられているものに限って整理を行うこととする（担当：高瀬委員）。例としては下記のようなものがある。

- ・ Comite Euro-International du Beton (CEB)
 - ・ 土木学会複合構造標準示方書
 - ・ 土木学会、ACI (ひび割れ幅算定式)
- (3) 理論解による感度解析について
- ・ 内容は引き続き議論する。理論解に拘る必要があるのかとの意見があった。担当は八十島委員。
- (4) 教科書等での扱いについて
- ・ 当面、大学教員である委員が手持ちの RC の教科書を閲覧し、付着に関する取扱い項目をリストアップする。例として、下記の教科書には $\tau-s$ 関係の紹介がある。
 - ・ 森田司郎：鉄筋コンクリート構造 (1975)
 - ・ 大塚浩司：鉄筋コンクリート工学 (1997)
 - ・ 谷川恭雄：鉄筋コンクリート構造－理論と設計－ (1995)
 - ・ 担当は近藤委員、谷村委員
- (5) 実構造物の被害事例について
- ・ 橋脚倒壊における定着部破壊はあるかもしれない。いわゆる部材軸に沿った付着破壊はほとんどないかもしれない。とりあえず、情報収集を行う。担当は飯塚委員。
- (6) 有限要素解析における付着機構 (ボンドリンク等) に関する文献調査について
- ・ WG3 と作業内容を調整することとする。

3. 次回 WG

5 月中に WG を行う。金久保幹事がメールにて日程調整する。